

この街 あの人 この人

南市原を元気に！ 地域広報紙『伝心柱』を発行

原地利忠さん、深山康彦さん（ともに牛久在住）



「伝心柱で活気あるまちに」と話す原地さん(右)と、深山さん

地域に密着した広報紙

原地さんと深山さんは、光風台・南総・加茂地区に無料で配布している地域広報紙『伝心柱』をボランティアで発行しています。地域に密着した広報紙として、南市原の情報を掲載。1回当たりの発行部数は1万5500部です。1994年に創刊して以来、現在に至るまで毎月10日に欠かさず発行しています。

読んだ人が楽しくなる記事を

どのような記事を書けるようにしているかを尋ねると「読んだ人が元気になる・楽しくなる記事を書けています」と編集長の原地さん。地元の出来事やイベントだけでなく、南市原に住んでいる人が出身の人が県大会や全国大会で入賞を果たしたときは、その活躍ぶりも掲載。ときには、号外を出すこともあります。

『背中を押す』存在

「伝心柱は、地域の人たちを『後押し』する存在として発行しています。例えば2006年頃に牛久で『花いっぱい大作戦』を展開したとき、その様子を単に広報するのではなく、読者が実際に来てくれるように、参加しやすくなるように、記事を書きました。人を後押しする存在、それが伝心柱の役割です。今でもその方針は変わっていません。今年4月の最新号でも『読者の皆さん、南市原の活性化に向けて一緒に取り組みましょう』という記事を書きました。その点が、事実をありの



伝心柱

ままに報道する新聞とは、似ているようで似ていない部分だと思います」。

地元の経済発展のためにも

「発行の費用は、広告収入で賄っています。広告の内容は、全て南市原のもので。広告を見た読者が、地元のお店に行く。地元の経済が地元で循環することは、とてもいいことだと思います。仕事や職が確保されて、人の流出を防ぐことにつながりますからね。経済の面からも、伝心柱を通して活気ある地域にしていきたい」と語ります。

読者ととともに、これからも活動

「『南市原で〇〇運動をやっているよ。うちの地域も何かやってみようか』という感じで、他の地域でも住民の活動が広がっていくといいですね。まち全体が賑わうために、これからも読者と一緒に取り組んでいきたい」と笑顔で話してくれました。

Art Collection



顔は迷路（深沢幸雄・1988年作）

人の背丈より高い壁で作られた迷路が、二つあります。迷路は人の顔のように見えます。この迷路には出口がないようですね。特に左側の迷路は、ぐるぐる回って迷い道から抜け出せない現代社会に生きる私たちの姿を表しているようです。

6月下旬まで市役所ロビーで展示しています。
問合せ [Web](#) ふるさと文化課 ☎ 9853

防災コーナー⑦

～ 171 伝言板で安否確認～

災害用伝言ダイヤル『171』とは

大規模災害発生時に被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に、NTTがサービスを提供する『声の伝言板』です。被災地の人から録音した伝言を、他の地域の人から再生して聞くことができます。また被災地の人への伝言を録音することも可能です。

利用方法

『171』をダイヤルし、利用ガイダンスに従って伝言の録音・再生を行います。録音・再生は被災地の人からの電話番号を入力することでできます。通常の通話料はかかりますが、利用に当たっての契約は、一切不要です。

問合せ [Web](#) 防災課 ☎ 9823



いちはら

歴史物語

45 市原の仏像と祈りの世界

⑧ 更級日記と仏像

更級日記の出発地―市原

かつて市原には上総国府（現在の県庁に当たる）が置かれ、国の中心として栄えました。上総は重要な国で、長官である『太守』には名目的に親王が任じられるしきたりになっていました。よって次官の『介』が長官格として国府に赴任していました。

平安時代後期の日記文学『更級日記』の作者は、菅原孝標女。上総介に任命された父孝標とともに市原に下向し、多感な少女時代をここで過ごし

ました。千年前に生きた文学少女の回想記は、市原の地から始まることになったのです。願いをかなえた薬師仏

菅原孝標女は『更級日記』の中で、都で流行する源氏物語などを手に入れ読んでみたい、都に帰りたいという、市原での少女時代の思いを回想しています。そしてその願いが叶うように等身大の薬師仏を作り、熱心に拝んでいたと記しています。これが実際のエピソードなのかどうかはわかりませんが、それくらい本気で思っていたということがあるでしょう。この後、願いが叶い、一家は都に上ることになりますが、願いに応えた薬師仏は市原の

9853

問合せ ふるさと文化課 ☎ 9853

日記に記されています。国司館に置き去りにされたようです。何度もそば近く礼拝した薬師仏を見捨てて旅立ちるとき、悲しくて人知れず泣いてしまった作者の様子が『更級日記』に記されています。



更級日記パレード（上総いちはら国府祭り）

しっかりと育てよう！
市原の子ども！！

子育て4か条

- (1) 挨拶ができ、礼儀正しい子どもに育てよう
- (2) 心から『ありがとう』と言える子どもに育てよう
- (3) ものの善し悪しがわかる子どもに育てよう
- (4) 相手の気持ちができる子どもに育てよう

広報いちはらは、再生紙を使用しています。